

○ 学校評価について概要

令和4年度の学校評価は、学校運営協議会と協議し生徒、保護者への質問内容を大幅に見直して実施した。令和5年度は、前年度同様の質問内容としたため、経年比較分析が可能となった。ほとんどの評価項目で前年度の調査結果と同等の評価となっており、本校の生徒のもつ強みと課題について浮き彫りとなった。

なお、個々の内容については、以下のように分析できる。

(1) 基礎基本を身に付け、活用する生徒

学習面では、「勉強がよくわかるように教えてくれる」に（そう思う・だいたいそう思う）と回答した生徒が91.3%（R4 92.7%）であり、肯定的な回答の数値が高い。一方で、「勉強がわからない時には先生に聞くことができますか」という項目に対しては30.9%（R4 32.4%）の生徒が（あまりそう思わない・思わない）と回答しており、質問や相談ができる機会の確保をはじめ、教師側の受け入れ態勢を整えていくことが必要である。

また、保護者アンケートでは、「学校では、基礎的な学力が身に付くようなわかりやすい授業をしている」の項目で（あまりそう思わない・思わない）と回答した保護者が19.4%（R4 21.6%）と高い数値を示している。「わかる授業」の推進に努め、基礎基本の定着を目指した授業改善を追求していくことが大切である。

「家庭学習を毎日していますか」については、生徒・保護者ともに肯定的な回答の数値が低い。単に宿題を課すだけでなく、自主学習の仕方について教科担当がふれていくことで、学習内容の定着に向けた家庭学習の推進につなげていきたい。

(2) 人との関わりを通して育つ生徒

規範意識が高く、しっかりとしたあいさつのできる生徒が多い。「学校全体として、さわやかなあいさつが友達や先生にできていますか」という項目に（そう思う・大体そう思う）と回答した生徒が89.5%（R4 93.7%）と、高い数値を示している。昨年度からの微減が気になるものの、今後も生徒との良好な関係づくりを継続していきたい。

「あなたのクラスは楽しく、教室は安心できる場所ですか」という項目に（そう思う・大体そう思う）と答える生徒が85%（R4 88.4%）と高い数値を示している。全体的にみると、学年、学級での授業や学校行事等を通じ、他者との関わりを大切にしながら、良い集団作りが行われている。しかし、（あまりそう思わない・思わない）と回答する14.9%（R4 11.5%）の生徒がいることに高い意識を持つべきである。各学級にならすと5～6人程度と少人数ではあるものの、安心できない生徒の存在を重く捉え、「誰も取り残さない」姿勢で指導にあたる必要がある。誰もが所属感を持てるよう、手立てを講じるとともに、生徒個々とのコミュニケーションを密にし、トラブル等が起こらない雰囲気醸成に力を注いでいきたい。このことを含め学校の教育活動全体を通して、いじめや問題行動等の未然防止に努めるとともに、早期発見、早期対応を継続していきたい。

(3) 命を大切にする生徒

「あなたは健康に留意し、規則正しい生活ができましたか」の項目では、否定的な回答の数値が高いことが心配である。保健週間や給食週間、防災、交通安全指導等の機会を通じ、健康で安全な生活への意識の高揚をしていきたい。

一方で、「学校行事に友達と協力して一生懸命取り組みましたか」、「あなたは目標をもって部活動や校外活動に取り組んでいますか」という2つの項目において、肯定的な回答をする生徒が大変多い。学校行事や自己の目標に向け前向きに取り組んでいる様子が伺え、心の充実が読み取れる。

心と体の健康は相関するため、互いに向上するよう、学校生活全体を通じて生徒の健康を支えていくことが大切である。